

# 遊工房アートスペース

## 年次報告

2020



遊工房アートスペースのアーティスト・イン・レジデンス事業は、文化庁・アーティスト・イン・レジデンス活動支援を通じた国際文化交流事業として採択され、助成を受けています。

# 目次

・はじめに — パンデミック元年を振り返る・COVID-19とのこの1年・2020年

・遊工房アートスペースについて — ヴィジョン、ヴァリュー、ミッション

## 1. 主要事業

1-1 AIR プログラム

1-2 展示プログラム

1-3 イベント - アーティストトーク、クリティック、セッションなど

## 2. 関連活動

2-1 AIR 交流プログラム

2-2 Y-AIR の実践

2-3 ネットワーク活動

2-4 地域活動、コミュニティーアート

2-5 調査研究

2-6 アーカイブス

・出版物、掲載記事など

・2020年活動一覧 - Overview

\* 本文中の記号について

文 文化庁 アーティスト・イン・レジデンス活動支援事業

M マイクロレジデンス関連事業

Y Y-AIR(若手アーティスト育成・教育プログラム) 関連事業

E ECOC(欧州文化首都) 関連事業

R YRP, Youkobo Returnee Residency Program

## パンデミック元年を振り返る - COVID-19 とのこの1年・2020年

2021年正月

村田達彦・弘子

この年報は、COVID-19・パンデミック元年の記録となった。

2019年暮れから年をまたいだ新年・正月の2カ月間の遊工房レジデンスは、個別の3名の海外作家で、滞在制作・展示であった。フィンランドからの2作家は、ここ遊工房で初対面だった。他1名はオーストラリアからの作家である。全く異なるジャンルと世代の3人の作家達と、パンデミックのことを語ったのが今年の正月の事。ペストや黒死病の話は出ても、身近にせまる事態を知る由もなかった。そして2月、女子美での国際フォーラムを女子美・日沼先生のもとで無事開催、海外からのゲストも予定通り来日、国内参加者予定の大学関係者の一部に、インフルエンザ対応の受験体制で出張できず欠席の連絡あった。

2月1カ月の短期滞在のスロバキアからの一家3人は、予定を切り上げ早めに帰国した。2月中に、3月以降の滞在予定者への注意勧告を至急流し、予定中2組は中止、1組は半ば強引な来日であった。このアーティスト・ユニットは3月末の帰国を迎え、母国が再入国制限下となり、対応に苦慮したが、結局、都内のホテルへ移り、2週間後に無事帰国した。

遊工房は、4月頭から完全閉鎖を実施した。活動停止はしたものの、政府のWHOのガイドにも沿わない感染症対策の中、非日常の生活は経過していった。この半年の間、滞在予定者の受入中止、交換プログラムの延期など、全ての予定アーティストや、国内外の関係機関との調整に大変苦勞した。相手方にとっても試練であっただろう。

そして、秋、10月から、アーティスト支援としての活動を開始した。国内作家に限る、グループ展の11月開催、12月から2月、3カ月間のレジデンス受入を慎重に進めている。年末の今も、未解決の事案は幾つか残ったままだ・・・。

コロナ禍で考え、悩み、そして、AIRとパンデミックについての調査研究を9月から始めた。コロナによるパンデミックが、ここから先、どのように収束するのかを地球規模でみる必要があると思う。これまでの移動手段の在り方、温暖化への取組みなど、国内外のAIR仲間との対話など、研究会として進めている。

AIRプログラムは、社会の中にある大切な活動だ。地域に根付いた活動、美術教育と連携する活動、文化

・芸術の祭典に関わるものなど、多様な存在がある。いずれのケースでも、異文化間の人と人の移動を伴う交流をベースに、多様性が受容される社会の醸成に向けて大事な活動であると信じている。

## 遊工房アートスペースについて

アートは社会と一体の不可欠なものであり、人々の生活に潤いと気付きをもたらすものです。遊工房アートスペースは、独自のアート活動を通して、地域性と国際性、伝統文化と現代美術という一見異なる方向性を示す要素を繋ぎ、多様性が自然に受け入れられる場づくりや交流を実践しています。真侷に活動するアーティストの表現活動の支援と共に、地域社会の一員として、今後とも実践を通じたアート活動を継続していきます。

### ヴィジョン

遊工房アートスペースは、多様な創作活動に応える実践の場となることでアーティストを支援、アートの社会的な役割とその重要性を提示することを目指しています。

### バリュー(核となる価値観)

#### ・開放性と交流:

アートは広く開かれるものであると同時に、異文化の人々のコミュニケーションと理解を育てるために必要なツールであると考えます。

#### ・フレキシビリティ(柔軟性):

アートとアーティスト活動の本質に対して、私たちの活動はフレキシブルな取り組み方が不可欠であると認識します。

#### ・自律性:

コミュニティや他の組織と強固なネットワークを保つことを大切にしながら、アーティストと遊工房自身の個性と多様性を維持します。

### ミッション

真摯に活動を続けるアーティストの創作・発表の活動を支援します。(AIR プログラム、ギャラリー・プログラム) 国内外のアーティストの交流、さらに地域社会の人々との対話を通じた相互理解の醸成を図り、多様性が受け入れられる社会の形成を目指します。(アート・イベント、トーク)

他の AIR センターやアートスペースとのネットワークを築き、より多くの人々がアートを楽しめる環境づくりに努めます。(Res Artis、J-AIR Network、AIR-J など)

人々がアートに接する様々な機会を生み出し、アートが社会にとって不可欠であるという認識を広まるよう努めます。

# 1 主要事業

## 1-1 AIR プログラム

2019.12.01 - 2020.01.31 テーム・コーペラ 文

2019.12.01 - 2020.01.31 ベンジャミン・ウッズ 文

2019.12.01 - 2020.01.31 アニタ・イエンセン 文

2020.02.02 - 2020.02.27 エリック・シレ 文

2020.02.01 - 2020.02.29 ロビン・バード & ドミニク・チェン 文

2020.03.01 - 2020.03.31 マリアンナ・クリストフィデス & ベルト・ブロインリッヒ 文

( 2020.04.01 - 2020.09.30 COVID-19 パンデミックにより一時閉鎖 )

2020.12.03 - 2021.02.28 進藤詩子 文 Y

---

2019.12.01 - 2020.01.31

テーム・コーペラ [フィンランド]

国際 AIR 間プログラム招聘アーティスト。(Finnish Artists' Studio Foundation)彼の表現は、媒体としての絵画の歴史と、その可能性を概念的な調査により定義され発展している。長年にわたり、コーペラの絵画はインスタレーションの形が主であったが、最近では平面の仕事に戻り、具体的な形を抽象化することで存在を決定付けられる表現をめざしている。思考を形にするための視覚的な要素を観客と共有し、作品と周囲の現実が繋がり、体験の源を考えられるような作品作りを試行している。



2019.12.01 - 2020.01.31

ベンジャミン・ウッズ[オーストラリア]

1988年にオーストラリアのメルボルン(ウルンジェリとブーンウルングの国)で生まれ、家庭の環境の影響で早くからアーティストを志す道を歩み始めた。彼にとって、ピアノ、フルート、コントラバス、歌を学ぶことが喜びであった。その後、視覚芸術にも挑戦を広げ、絵画、ドローイング、彫刻を学ぶ。大学で彫刻を専攻後、2011年から作品発表を継続している。彫刻が身体認識にどのように関係しているか、特にその環境下での人々との接近と配慮の距離に興味を持っている。この関心は、彫刻的なフォームの研究として行う音と動きの中で特に試行される。



2019.12.01 - 2020.01.31

アニタ・イエンセン[フィンランド]

1957年フィンランド生まれ。ヴィジュアルアーティスト・プリントメイカー。彼女の芸術は、日本美術における変形と形の変化と美しさの変化に注目する。写真やグラフィックアートの分野におけるプレゼンテーション、テクニク、材料の形態について新たな視点の紹介を試みる。イメージを通して、日本の美学の形式、概念、用語を私自身の視点から再解釈する。日本古来の素材と展示形式と版画や写真における最新技術や素材を組み合わせることで、自身の作品の興味深い新しい面を生み出している。



2020.02.02 - 2020.02.27

エリック・シレ[スロバキア]

彼は美術史とポップカルチャーを組み合わせることで、新しい現代的な疑似モチーフとハイブリッドのおとぎ話を作り出す。作品は、コンピューターの背後にある未知の人工的な土地から移植された風景、肖像画あるいは静物のように見える。

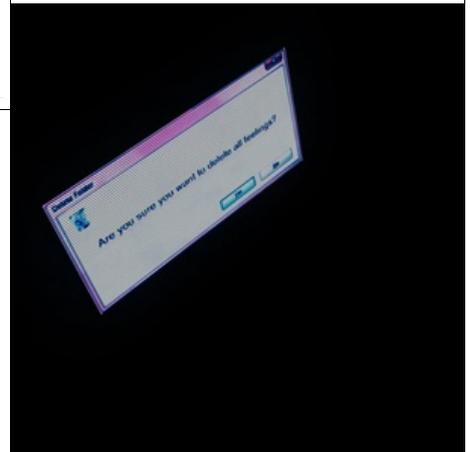
遊工房での1ヶ月の滞在中、伝統的な絵画技法に焦点を当て、絵画に加えて、大規模な画面とその技術をスタジオで探求し続けた。制汗剤ボトル入りインクを使用した描画や、紙にインクと他の素材を組み合わせた描画など、新しい独自の方法を探し出すことに没頭した。漆の使用方法を学ぶことも焦点にした。水彩技法を使用して、小さなフォーマットに焦点を当てた。文化における社会的および生態学的な原則と矛盾を含むテーマは継続している。3度目の滞在制作。



2020.02.01 - 2020.02.29

ロビン・バード & ドミニク・チェン[USA]

彼らは、米国カリフォルニア州オークランドに拠点を置くコンセプチュアル、インスタレーション、ニューメディアのアーティストで、デザイン集団 MACRO WAVES と共同作業をしてきた。ロビン・バードは、遊び、反抗、トラウマのような子供時代の記憶を手段として、信念、ユーモア、サイエンスフィクションを含んで、デジタルを基に、消費主義、植民地主義、インターネット文化、および人間開発への影響に関連したインスタレーション作品を作る。一方 ドミニク・チェンは、都市の移ろいを調べ 空間的景観を再文脈化することにより、監視、社会的統制、抵抗文化に対する影響を探り彫刻的なものと新しいメディアのプロジェクトなどを組み合わせ、現代の都市化の様相に触発された視覚的なインスタレーションを作る。遊工房では、ホログラム、感情、ポータル：広告と呼ばれる投影マッピングと彫刻シリーズに取り組んだ。このプロジェクトは、デジタル広告の増加が、人間社会と私たちの精神的な健康に与える影響を考え、広告が資本主義に対応するものではなく、想像力を促進し、前向きなものとして人間の感情に関与できることを再考し、「わびさび」、消費者文化、SF の概念を探求することによる人間の不完全さを認める新しい形と、物事のあり方を考える広告を作成することを目指した。



2020.03.01- 2020.03.31

マリアンナ・クリストフィデス & ベルト・ブロインリッヒ[ドイツ]

マリアンナ・クリストフィデスは、ベルリン在住の、キプロス人アーティストであり映画製作に携わる。共著に座す様々な層を構成し絡み合った物語を扱う。キプロスを代表し第 54 回ベネチアビエンナーレに参加し、また、ベルリン芸術賞 2019 のファイナリストにもノミネートされた。遊工房では、彼らは、地球の力を人間のエネルギーの引き金として調査する「Strung to Breaking Point」プロジェクトを遂行した。エネルギーの概念を再考するために、生命を体系的な現象とみなすことで、惑星の意識に注意を向ける。計画されたのは、日本の写真家、伝統工芸家、科学者とのインタビューやリサーチをした。



2020.12.03 - 2021.02.28

進藤詩子[日本]

東京生まれの美術家。研究と制作を両輪とした芸術実践を国内外で展開している。近年の活動では、光と闇の間でさまざまに「うつ(移、写、映、撮)り」、濃淡や線にあらわれる「影」に着目している。また、いかにして芸術作品は「翻訳不可能なもの」を体現し得るのかについて研究/制作を行なう。2019-20 年、文化庁新進芸術家海外研修制度一年研修員としてアメリカ合衆国ニューメキシコ州に滞在、現地を拠点に活躍した芸術家アグネス・マーティンの「抽象表現」を探る。米国サンタフェを拠点に実施した、アグネス・マーティンの芸術実践に関する研修活動を継続する形で国内で展開している制作と研究を、遊工房での3ヶ月間の活動を通して更に深化させ、ドローイングを中心とした作品にまとめ、終盤に展覧会《Forever Tide (仮題)》として発表する。



## 1-2 展示プログラム

2020.01.22 - 2020.01.26 果てしない海 | テーム・コーペラ

2020.01.22 - 2020.01.26 葉（共鳴への希望） | ベンジャミン・ウッズ

2020.01.22 - 2020.01.26 人生というドラマが明かされる瞬間 | アニタ・イエンセン

2020.02.19 - 2020.02.23 長いピンクの影が落ちるところ | エリック・シレ

2020.02.19 - 2020.02.23

ホログラム・感情・ポータル：広告の脱構築 | ロビン・バード&ドミニク・チェン

2020.02.19 - 2020.02.23

---

鍵岡リグレ アンヌ、石黒 昭 二人展（AIR 交換プログラム活動成果報告展）  
| 鍵岡リグレ アンヌ、石黒 昭

---

2020.03.25 - 2020.03.27 Perception Practice / チカク | 曹賢珠、山口諒

2020.03.01 - 2020.03.31 インタビューと調査研究

| マリアンナ・クリストフィデス & ベルント・ブロインリッヒ :

( 2020.04.01 - 2020.09.30 COVID-19 パンデミックにより一時閉鎖 )

2020.11.03 - 2020.11.29 隣り合う腕 | ALABORA : 大塚 聡、川越健太、空谷圭章

2020.11.03 - 2020.11.29 トロールの森・20年の歩み | 全参加作家

---

2020.11.19 - 2021.12.31 Ai mi Tagai 2020 London, Web Project

2020.01.22-2020.01.26

テーム・コーペラ [フィンランド]

果てしない海

遊工房での滞在中、彼は象徴的及び比喩的表現を通して、人類の精神的な営みを観察し続けた。オープンスタジオでは、世界と思考が調和するための、具体的な形を探る過程で制作された絵画的ドローイングを発表した。



2020.01.22 - 2020.01.26

ベンジャミン・ウッズ [オーストラリア]

葉 (共鳴への希望)

彼は哲学者のジャン＝リュック・ナンシーによる、共鳴とは「源とその受容がある」という事、また聴くことで「自身の内側だけでなく外側も開き、共鳴する世界が開かれ、世界は客体と主体の設えが取り去られ、独自の振幅に戻した」という観点を基に、彫刻を介した共鳴を探り、展覧会では共鳴を聴く行為に結び付けた。尚、身体と空間の再考をした彫刻家マルティン・ハイデガーの影響があった。



2020.01.22 - 2020.01.26

アニタ・イエンセン [フィンランド]

人生というドラマが明かされる瞬間

展示は大きな巻物として、前進や後退し過去と未来を垣間見るような時空を超えた旅の機会を与えた。日本の美学の極みを組み合わせて芸術表現に意図的な緊張感をもたらした。今日の版画家と写真家が使用する最新の技術と素材で、何世紀も昔の日本の素材と視覚的遺産を結びつけた。2019年は日本とフィンランドの外交関係100周年であり、展覧会はその100周年記念の一部として行われた。



2020.02.19 – 2020.02.23

エリック・シレ[スロバキア]

長いピンクの影が落ちるところ

シレの絵画は、コミックブックやアニメ映画の幾つかの美学と実践が取り入れられている。主人公と隠されたグラフィック略語（オブジェクトとアクティビティのシンボル）をモノクロの背景の複雑な絵画要素に重ね、東洋と西洋の文化のイメージ、シンボル、美学を融合させた。ヨーロッパの文化的文脈を自由に引用し、ダンテ、ベックリン、サウスパークの絵画を Last Boating（2009）または Hello History（2010）で美術史とポップカルチャーを組み合わせ、新しい現代的な疑似モチーフとハイブリッドのおとぎ話を作り出した。



2020.02.19 – 2020.02.23

ロビン・バード&ドミニク・チェン [米国]

ホログラム・感情・ポータル: 広告の脱構築

バードとチェンは、ホログラム・感情・ポータル: 広告の脱構築と呼ばれるプロジェクションマッピングと彫刻シリーズに取り組んだ。このプロジェクトは、デジタル広告の増加と、それが人間への精神的な健康に与える影響に対応する。広告が資本主義に対応するのではなく、想像力を促進し、前向きな思考、人間の感情に関与するように再考した。「わびさび」、消費者文化、SF の概念を探求し人間の不完全さを認める新しい形の広告と、物のあり方を考える広告を作成することを目指した。デザイン集団である MACRO WAVES としばしば共同作業をしている。



2020.02.19 - 2020.02.23

鍵岡リグレ・アンヌ、石黒 昭[日本]

鍵岡リグレ・アンヌ、石黒 昭 二人展(AIR 交換プログラム活動成果報告展)

本年度、遊工房と海外 AIR との交換プログラムに参加したアーティスト 2 名による合同成果展と活動報告。鍵岡 リグレ・アンヌは、2019 年 7-9 月の 3 ヶ月間ルクセンブルクの「Annexes de Bourglinster」、石黒昭は同年 9-11 月の 3 ヶ月間英国レスターの「studion Ame」での滞在制作を実施。

22 日(土) 16:00- は両作家による活動報告。

#### ・ 鍵岡 リグレ アンヌ

1987 年神奈川県生。2011 年東京芸術大学絵画科油画専攻卒、同大学大学院にて壁画を研究。2013 年フランスに渡り、フランス国立高等工芸美術学校にてフレスコ・モザイクを学ぶ。現在は鎌倉にアトリエを構える。

主な個展に「A Moment of Immersion」Sakurado Fine Arts(東京、2018 年)、「Anne Kagioka Rigoulet」Sakurado Fine Arts (パリ、2014 年/東京、2015 年)などがある他、フランス、日本、ラトビアなどでのグループ展や壁画プロジェクトに多数参加している。

<http://annekagioka.com/>

#### ・ 石黒 昭

2008 年より独学でアーティストとしてのキャリアをスタートし、デコラティブペイント職人の経験から、虚実の捻れたはざまの表層へのアプローチを作品にしている。近年ではマーブレスクシリーズにおいて、新しい地質年代の表層である人新世の景色を描いた絵画を国内外で発表している。

<https://www.akiraishiguro.com/>



2020.03.25 - 2020.03.27

曹賢珠[韓国]、山口諒[日本]

Perception Practice / チカク

東京藝術大学大学院・美術研究科・グローバルアートプラクティス(GAP)専攻と、遊工房の共催の形で開催した。彼らは、GAP 専攻の1年修了者の中から選抜された若手アーティスト曹賢珠(ジョ・ヒュンジュ)と山口諒による2人展。曹は、写真家としての彼女のテーマでもある"近くで見ること"の力を信じて展示、山口は、これまでの経験を活かしながら身体パフォーマンスによる作品を制作、発表した。

"Perception Practice / チカク" Exhibition View at Youkobo Art Space 限定公開

[https://www.youtube.com/watch?v=zFyQI\\_yMj0Y&feature=youtu.be](https://www.youtube.com/watch?v=zFyQI_yMj0Y&feature=youtu.be)

・曹賢珠(ジョ・ヒュンジュ)

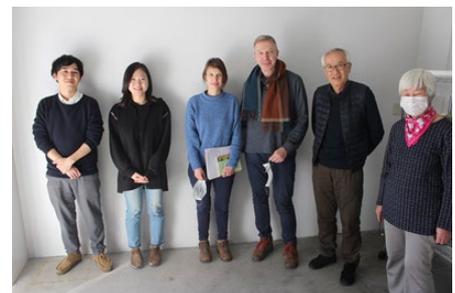
1995年ソウル生。ニューヨークのコロンビア大学で美術史と東アジア学の学士号を取得。2015年から写真を撮ってきた彼女の作品は光、影、時間といった形のないものが、物体との自然な接触によってどのように物質的になるかを観察することに注目している。

これまでの展示、「The art of photography」(PH21 ギャラリー、バルセロナ、2020)、個人展「光の指紋」(カフェ FARO Coffee & Catering, 東京、2019)、「Young Creative Korea 2018」(アラアートセンター、ソウル、2018)など。

<https://www.moodbyaoling.com/>

・山口諒

1990年長野県生。2012年名古屋芸術大学卒業、2015年に同大学院を修了。彼はこれまで実験的な映像作品やインスタレーション作品を制作してきたが、昨年GAPパリエユニットに参加して初めてパフォーマンス表現に挑戦した。これまでの展示、「中之条ビエンナーレ 2019」(群馬、2019年)、「Drop by the loop」(愛知、2018年)、「旧門谷小学校での展覧会」(愛知、2018~2016年)、「アーツ・チャレンジ 2016」(愛知、2016年)など。



2020.03.02 – 2020.03.31

マリアンナ・クリストフィデス & ベルト・ブロインリッヒ:

インタビューとリサーチ「Strung to Breaking Point (限界点への絆・仮訳)」

遊工房でのパンデミック本格化直前の1か月の滞在中、  
精力的に取材活動を実施。3月中旬は、レンタカーで東  
北被災地・原発事故現場への調査訪問実施。

- ・舞根森里海研究所（NPO 法人森は海の恋人・気仙沼市）畠山重篤氏ほか
- ・報道写真家・桑原史成氏を遊工房にお出かけ頂いての対談と取材資料の借用覚書など。（水俣、石牟礼道子ほか）桑原氏夫妻と遊工房にて非公開対談（3月21日）
- ・染職人・志村昌司氏：石牟礼道子原作・新作能「沖宮」プロデュースほか

マリアンナとベルトの動機と背景に関する情報：

<https://www.goethe.de/ins/jp/ja/sta/kyo/res/sti/s18/mcb.html>



2020.11.03 – 2020.11.29

ALABORA:大塚 聡、川越健太、空谷圭章[日本]

隣り合う片腕

ALABORA は本展を契機として、大塚聡、川越健太、空谷圭章によって、作品展示をはじめ様々な媒体での発表や、それぞれの制作過程における関心を共有し、実験的な試みをおこなうため、2020年に結成された。各作家はこれまで、既存の枠組みにとらわれない独自の活動を続けてきた。本展では、そのような活動に抽象的な輪郭を与えることを試みた。

大塚はガラスや鏡などの透過／反射する性質を持った素材を扱いながら、写真や映像においても同様の性質を見出し、私たちの視線、あるいはその先にある風景が拡張性を獲得していくような表現を実践している。川越は写真や絵画に潜在する構造に関心を寄せ、そこから引き出される要素を造形的な操作のための手がかりとして捉え直し、写真を断片性から複数性へと接合／統合していくための形態を探求している。また、空谷は、眼前に広がる光景を構成する要素を解きほぐしながら、版画の特質を活用し色彩や線といった基本的な造形要素に還元することで、見ることの経験を抽出してみせている。



2020.11.03 – 2020.11.29

全参加作家

トロールの森・20年の歩み

来年20周年を迎える「トロールの森」を記念して、これまでの活動の歩みを展示した。地元の小学校児童4年生の総合学習テーマとしての取り組みもあり、ユニークなアーカイブの公開となった。



2020.11.19-2022.12.31

Ai mi Tagai 2020 London, Web Project

2015年から毎年実施している「London Tokyo Y-AIR Exchange Programme (LTYE)」の5年目の節目として、これまでの参加作家及び協力美大教員によるグループ展覧会と、この活動評価のためのフォーラムを実施する日英協働プログラム。「Ai mi Tagai」プロジェクト。2019年7月に東京で開催。ロンドンでの2020年開催計画はパンデミックの為に中止となったが、両国の作家中心に立ち上げたオンライン上での創作活動。Ai mi Tagai Web Projectとして、当初計画の展覧会プレビュー日程に合わせてWeb公開を始めている。オンライン活動は2021年いっぱい継続することで活発な交流が始まっている。

・ Ai mi Tagai (アイミタガイ) アーティスト：  
アビー・ジョーンズ, アリス・ジェイコブス, 磯村暖,  
エレノ・ターンブル, OJUN, 川越健太, ギリス・アダム  
ソン・サンプル, グラハム・エラード&スティーブン・ジ  
ョンストン, 郷治竜之介, ショーン・ラヴェール, ジョ  
ンバティストウ・ラガデキ, ダリア・ブルム, 地村洋平,  
トゥーリ・リトヴァック, 東山詩織, 藤原信幸, 堀内崇  
志, 堀内悠希, リディア・デイヴィス, 臼井仁美, 渡邊  
庸平, アナイス・コム, ハンナ・ドーセット  
[日本、イギリス]

・ WEBSITE: <https://www.aimitagai.com>

・ WORKSPACE:

<https://www.notion.so/4bca1ef141d2423f8c1871e00c0e83d5...>

・ SHOWSPACE: <https://www.aimitagai.com/show-space>

・ INSTAGRAM:

[https://www.instagram.com/london\\_tokyo\\_y\\_air/](https://www.instagram.com/london_tokyo_y_air/)

・ CSM SPEAKING WITH EMPATHY INSTAGRAM:

<https://www.instagram.com/speakingwithempathy/>



## 1-3 イベント、アーティストトーク、クリティック・セッション

### アーティスト・トーク

2020.01.22 テーム・コーペラ、ベンジャミン・ウッズ、アニタ・イエンセン

2020.02.19 エリック・シレ、ロビン・バード&ドミニク・チェン、鍵岡リグレ アンヌ、石黒 昭

2020.03.25 曹賢珠、山口諒

2020.03.21 マリアンナ・クリストフィデス & ベルント・ブロインリッヒ、桑原史成

2020.11.03 隣り合う腕 | ALABORA : 大塚 聡、川越健太、空谷圭章

2020.11.14 トロールの森・20年の歩み 村田達彦

---

2020.11.19 Ai mi Tagai 2020 London, Web Project, Preview talks, Ai mi Tagai team

### クリティックセッション・講評会

2020.03.25 曹賢珠、山口諒、藤原信幸（東京芸大）

2020.11~12 Ai mi Tagai artists + CSM young Curators

### ライブ・パフォーマンス、ワークショップ

2020.10~12 Ai mi Tagai Artists オンライン交流

## 2. 関連活動

AIR 事業の実践を通し、AIR がアーティストの活動の一つの要素となり、また同時に社会において大切な役割を持つ存在となることを目指す。アーティストの滞在制作、発表の機会と場としての AIR 活動をベースとした関連活動は、4つの柱で展開している。

「AIR 交流プログラム」は、「国際機関からの受入」：国際機関との覚書に基づく継続的な受入事業と、「海外の AIR 活動機関との交換プログラム」：海外 AIR への派遣と、その発展形としての受入・派遣の交換プログラムで、国内アーティストの海外での活動の機会と場の創設も大切なミッションと考えている。

また、2013年 AIR と美大の協働から生まれた「Y-AIR」概念の実践活動は、美大卒業間もない若手アーティストの AIR 体験機会の創出と共に、AIR 運営の実際の体験や、滞在者をサポートするインターンシップを通じた人材育成などの活動として、「Y-AIR の実践」を進めている。

「ネットワーク活動」は、国内外の AIR プログラム間、AIR 活動支援機関などとのネットワーク活動。「地域活動、コミュニティーアート」は、地域でのアートを通じた活動として、都立善福寺公園での野外アート展「トロールの森」へ継続参画の活動がある。「調査・研究」では、AIR の一層の顕在化、AIR と美大の協働による諸活動と調査研究は、関係者との共有を意図して、その活動成果の報告会や、資料閲覧なども実施している。特に、マイクロレジデンスの存在、そのネットワーク活動との連携を重点にしている。

### 2-1. AIR 交流プログラム

アーティストの滞在制作・発表の場と機会としての作家受入の継続と共に、国内作家の海外活動機会の創出を都度実施している。この活動は、受入と派遣のみならず、多様な形で活動展開している国内外の AIR 間の交流を通じた交換プログラムへの発展にも繋がっている。

#### 1. 「国際機関からの受入」2020

- ・ Asia New Zealand Foundation, アジア・ニュージーランド財団（オークランド）  
ニュージーランド作家の受入は 2015 年より開始。2020 年 6 人目の受入計画、中止。2021 年以降で再検討。
- ・ Luxembourg アーティスト受入：在日 Luxembourg 大使館・Luxembourg 文化省  
ルクセンブルグ作家の受入は 2011 年より開始、**2020 年 10 人目の受入計画、中止**。2021 年以降で再検討。
- ・ Finnish Writers Union, フィンランド小説家協会（ヘルシンキ）  
フィンランド作家の受入は 2016 年より開始。**5 年目の 2020 年の受入計画、中止**。2021 年以降で再検討。
- ・ Passa Porta, ベルギー小説家協会（ブラッセル）  
ベルギー作家の受入開始の **2020 年計画は中止**。2021 年以降で再検討。

#### 2. 「海外の AIR 活動機関との交換プログラム」2020

- ・ Finnish Artists' Studio Foundation (FASF) 交換プログラム（ヘルシンキ）2017 年開始。  
**2020 年受入計画・派遣計画ともに中止**。2021 年以降で再検討。
- ・ 2019 年新規開始の交換プログラム（ルクセンブルグ及びレスター・UK）ともに 2020 年は見合わせ。
- ・ 2019 年派遣作家の帰国報告会と活動展示開催：2020 年 2 月  
2020. 02. 19 - 2020. 02. 23 鍵岡リグレ アンヌ、石黒 昭 二人展 (AIR 交換プログラム活動成果報告展)  
鍵岡リグレ アンヌ：Annexes du Château de Bourglinster（ルクセンブルク）  
石黒 昭：studionAme（レスター、英国）



## 2-2. Y-AIR の実践

### 1. Y-AIR Network Forum 2020 Tokyo

Y-AIR に関わる国内外の活動実践者を招き、国内の美大他、関係者への活動アピールと共に、これからの活動の普及を考えるフォーラムを、女子美術大学との協働にて、同大学にて開催した。AIR と美大の協働（マイクロの存在である AIR とマクロの存在である美術大学との協働）を通し、その実施・活動評価をまとめ、持続可能な交換プログラムの仕組みづくりのスタートとなった。詳細は web へ <https://microresidence.net/y-air-network/>

- ・開催日程：2020年2月7日（金）、8日（土）
- ・会場：女子美術大学杉並校地
- ・タイトル：Y-AIR Concept - “AIR × Art University” International career development for young artists  
Y-AIR 構想 — 「AIR × 美術大学」によるアーティストの国際的キャリアの形成
- ・参画機関：女子美術大学、東京藝術大学、ロンドン芸術大学 CSM 校、オーストラリア・RMIT（メルボルン）、西ボヘミア大学（チェコ）、アジア・パシフィック・カレッジ（マニラ）、ラップランド大学（フィンランド）、Waria Artbreak（フィンランド）、BMLab（マニラ）、陸前高田 AIR（岩手）、天空の芸術祭（長野）、遊工房アールスペース（東京）、AIR ネットワークジャパン
- ・記録冊子：[http://www.youkobo.co.jp/news/Y-AIR\\_Forum\\_2020\\_Tokyo.pdf](http://www.youkobo.co.jp/news/Y-AIR_Forum_2020_Tokyo.pdf)



## 2. Y-AIR 実践 2020

### ① London/Tokyo Y-AIR Exchange Program 2020

ロンドン芸術大学 CSM 校と、現地の Studio 創作スペース運営組織・Acme Studios の間で 2013 年より始まった若手作家支援プログラム ASP (Associate Studio Program) と、東京藝大・油画研究室と遊工房アートスペースによる同様の Y-AIR Studio Program (注 1) との、相互交換プログラムで、2015 年から始まった。2020 年の双方各 2 名、計 4 名の相互交換プログラムは、中止。2021 年実現検討中。

#### 注 1 : Youkobo Y-AIR Studio Program 2020

遊工房スタジオでの在京若手作家の活動支援プログラム。2019 年の 4 年目は、前年度と同様、協力美大の東京藝大の参画を得て、美大卒業後間もない新人作家の活動の場となるもの。上記交換プログラムと重ねて実施するため、会期中、上記交換プログラムとしての 6 週間のロンドン滞在制作及び発表の機会と共に、前後して各 6 週間の独自スタジオ活動を展開する。

### ② アイミタガイ | Ai mi Tagai Project 2020 @ロンドン

London/ Tokyo Y-AIR Exchange Programme, LTYE プログラム・5 周年を機に結成された両国若手アーティストの創作活動を通じた活動。2015 年から毎年実施している「London Tokyo Y-AIR Exchange Programme」の 5 年目の節目として、これまでの参加作家及び協力美大教員によるグループ展覧会「Ai mi Tagai」と、この活動評価のためのフォーラムを 2019 年 7 月に東京で開催。2020 年はロンドン側主導で活動計画。2020 年 11 月 19 日～12 月 20 日@CSM 校大学内施設「Lethaby Gallery」での開催計画は中止となった。展覧会イベントの中止とは別に、進行中の相互創作活動を通じた交流は、「Ai mi Tgagai Web Project」として、情報共有の場・ツールを開発、当初設定の展覧会プレビュー日程 11 月 19 日に合わせ、Web の公開を開始した。

「Ai mi Tagai Web Project」：<https://www.aimitagai.com/>



3つのコンポーネント、「HOME PAGE」、「WORK SPACE」、「SHOW SPACE」から構成される専用ホームページ。コラボレーションアプリの概念を使用して、作家毎の創作活動の場である「WORK SPACE」、作品の展示に焦点を当てた「SHOW SPACE」を逐次作成し、創作活動を通じた交流を図るもの。各作家には編集権があるが、公開は閲覧だけとしている。

注 2 : 「アイミタガイ」

相身互い=同様の境遇にあるもの同士が共感し、助け合うことの意で、まだキャリアの浅い同時代のアーティストたちが、新たな体験を共有しつつお互いの存在を意識しながら支え合い、試行錯誤を繰り返すプログラムの特徴と、我々が考える国際交流の意義になぞらえタイトルに掲げた。参加作家：アビー・ジョーンズ、アリス・ジェイコブス、磯村暖、エレノ・ターンブル、OJUN、小津航、川越健太、ギリー・アダムソン・センブレ、グラハム・エラード&スティーブン・ジョンストン、郷治竜之介、ショーン・ラヴェール、ジョンパティストゥ・ラガデキ、ダリア・ブルム、地村洋平、トゥーリ・リトヴァック、東山詩織、藤原信幸、堀内崇志、堀内悠希、リディア・デイヴィス。2020年に新たにLYEプログラム・2020の参加作家4名が加わった。白井仁美、渡邊庸平、アナイス・カマー、ハンナ・ドゥセット

記録冊子「ロンドン/東京 Y-AIR 交換プログラム 5周年記念展 Ai mi Tagai 2019」本プログラムの2019年活動報告



### ③ Y-AIR Artist Exchange Program, Finland and Japan, 2020

長野県東御市で2016年から始まった国際芸術祭「天空の芸術祭」のAIRプログラム開設の機会に、イベント主催・東御市及び協力機関の東京藝大からの要請をもとに計画がスタート。現地実行委員会、藝大研究室、また、類似の環境芸術祭の経験豊かなフィンランドとの縁をもとに、AIR交換プログラムの継続推進仲間 ArtBreak・AIRプログラムマネジャーとラップランド大学（Rovaniemi市、Finland）及び、フィンランド・センター（東京）の協力で始まったプログラム。

2020年は、「天空の芸術祭2020」開催中止に伴い、交換プログラムは停止。

### ④ Y-AIR 海外派遣プログラム - 西ボヘミア大学 ArtCamp 2020

チェコの地方都市 Pilsen 市にある西ボヘミア大学で毎年夏に開催されているアートの国際サマースクール「ArtCamp」に、2013年より国内美術系大学教官（研究室）の協力を得て、美大生およびアーティストを派遣するプログラム。異文化での短期滞在型(3週間)創作交流機会は、アートとの研鑽と共に、国際交流に挑戦するもの。「EU/Japan Fest 日本委員会（東京）」の紹介、協力が基で始まったもの。2020年は、Camp への受講生及び、Camp 講師役アーティストの派遣を計画したが、ArtCamp 中止に伴い停止した。

### ⑤ Young Basque Artists' Residency in Japan, 2020

スペイン・バスク自治政府の若手アーティスト支援プログラム「ERTIBIL BIZKAIA」受賞者の日本のAIR体験機会の協力要請を受け、AIRと美大の協働するY-AIR活動の一環として、遊工房アーツスペースと女子美術大学の協働で2018年から始まった若手アーティスト支援活動。国内のAIRの協力を得て受入、地域の美大との協働も背景に継続してる。2020年計画は中止となった。

### ⑥ 東京・メルボルンY-AIR 交換プログラム2020

メルボルンの美大・RMITの文化芸術研修プログラム「The Japanese Contemporary Art Study Intensive (J-CASI)」の2019年9月の交流をきっかけに、両都市間のAIRと美大の相互交換の実現計画として、2020年からの遊工房への受入と、2021年以降の相互交換の覚書を交わした。2020年の受入計画は中止、計画は再検討となる。



### 3. 遊工房インターンシップ 2020

遊工房でのAIR運営の実習を通じた活動体験と、次世代人材の育成のためのプログラムとして2006年より活動開始。

国内美大中心の学生インターンシップ制度と、国際インターンシップ制度（Global Internship Program, GIP、注3）の2本立て。

2020年は、前年2019年秋からの、イスラエルからの修士生のインターンの活動修了を実施。新たな受入はなし。

・Adi Zaga:東京藝大・交換留学生・イスラエルからの修士研修生。実習期間2019年10月～2020年2月

Master in Policy and Theory of the Arts in Bezalel Academy, Jerusalem（東京芸大美学研究室・林卓行先生経由）

テーマ：Y-AIRの実践と国際フォーラム参画



（注3）Global Internship Program: GIP

遊工房のレジデンス・プログラムと展示・スタジオ・プログラムさらに関連するネットワーク活動を実践を通して体験するインターン制度。半年から1年間の実習で、2007年より始めている。これまでに、オランダ、英国、スペイン、オーストラリアからの帰国子女、英国からの研究生の合計5人を受入れた。本人の将来の活動への礎となると共に、遊工房の活動にも新鮮な息吹を与えています。

GIPは2013年以降受入停止中。

## 2-3 ネットワーク活動

AIRが社会的な存在となることを目指し、国内外のAIRネットワーク組織への参画と共に、2012年より創設したマイクロレジデンス・ネットワークを通じた独自活動を展開している。各AIRプログラム間やAIR活動支援機関との繋がりなど、様々なネットワーク活動を通し、AIR利用者であるアーティストや研究者などの活動機会の一層の顕在化、活動機会創出、活動支援や運営の資金の捻出など直接の活動支援と共に、さまざまなAIR活動の共同研究などを行なっている。

### 1. 「AIRとパンデミック研究会」開始

詳細「2-4. 調査・研究」にて

## 2. Y-AIR International Network Forum 女子美術大学杉並校地

Y-AIR Network Forum 2020 Tokyo

Y-AIR Concept - “AIR × Art University” International career development for young artists

Y-AIR 構想 — 「AIR × 美術大学」によるアーティストの国際的キャリアの形成

<https://microresidence.net/y-air-network/>

[http://www.youkobo.co.jp/news/Y-AIR\\_Forum\\_2020\\_Tokyo.pdf](http://www.youkobo.co.jp/news/Y-AIR_Forum_2020_Tokyo.pdf)

## 3. その他

・AIR on air

2020.12.11, 12 ヴィラ九条山ほかオンラインイベント

・在京国際機関ネットワーク

以下、例年の催し中止

「FIN JPN LAB」@フィンランド・センター

「チェコ・日本の交流のかたち—AIRを通じた文化交流」@チェコセンター

・遊工房ネットワーク

例年の活動不稼働となる。「AIRとパンデミック研究会」参照。

・個別相談・コンサル

AIR 設立、活性化検討：Shell 賞 AIR コンサル

AIR 体験機会コンサル：美大生、美大卒若手アーティスト、中堅アーティスト

## 2-4 地域活動、コミュニティーアート

アーティストの社会的な存在を、その活動を通して広く認知してもらうことは、地域にある遊工房の大事な役割でもあると考えている。身近に現代アートに触れる機会として、遊工房自身が発信するイベントばかりでなく、地元都立善福寺公園での野外アート展「トロールの森」、地域の公立小学校の土曜教室「アートキッズ」などとの共催と共に、地域で活動する各種アート団体との連携も積極的に進めている。地域連携としての、地元教育機関（小・中、高等学校、専門学校ほか）アート系 NPO、創作教室、ギャラリーなどとの連携は、地域にあるリソースの活用としても大事な側面となる。

### 1. トロールの森 2020

2020 年は、パンデミック禍で公共公園での催しなど、様々な規制遵守の上で、「キョトン」をテーマに開催（11月3日-23日）できた。「野外×アート」は、善福寺公園でのインスタレーションのほか、日・祝日を中心にしたワークショップ、多彩な身体表現を楽しむ野外劇場を展開。39組の作家たちが様々なプログラムの実施、「まちなか×アート」は、西荻窪から善福寺公園をアートでつなぐプログラムで、約20団体が展示やパフォーマンス参加など。遊工房アートスペースもサテライト会場として、アーティスト・グループ「ALABORA」による展示「隣り合う片腕」の展覧会開催。また、トロールの森20周年を来年に控え、「トロールの森・20年の歩み」を、地元小学校との協働でアーカイブ公開展示を実施した。



・「隣り合う片腕」展覧会

ALABORA : 大塚 聡、川越健太、空谷圭章 [日本] 2020.11.03 - 2020.11.29



・「トロールの森・20年の歩み」

桃井第四小学校4年生の総合学習のテーマとして3か月間の調査に基づく学習成果を「こども新聞」として編集、その発表の場ともなった。

2020.11.3 - 2020.11.29



・その他 :

NPO 法人 TFF「杉並区アートサポーター講座実習（「すぎなみ地域大学）」相談、「西荻ワークショップ・アートマップ」西荻窪のオルタナティブスペースのマッピングに協力（事務局：仙遊堂）

## 2-5 調査研究

AIR 活動実践を通じた調査・研究活動として、自らの調査と共に、Face to Face の対話をベースに AIR 相互訪問をはじめ、寺子屋的な会合、公開のフォーラム、シンポジウム等の開催、参画などを積極的に展開。AIR の社会装置としての存在を社会にアピールする大事な活動である。研究・調査活動は報告としてまとめ、Web を通し公開し情報共有に務めている。予算次第で印刷発行も適時実施。

### 1. 「AIR とパンデミック研究会」発足、2020 年 9 月

パンデミックの影響がアートの活動領域に及ぼす実態や、AIR に関わる、利用者や運営者である私たちが抱える課題を抽出し、今後の AIR（アーティスト・イン・レジデンス）に関わる活動に役立つヒントを提供できることを期待して始めた。

「2019 年 2 月京都に集った国内外のマикроレジデンスの仲間はどのようにしているだろうか?」。その頃、AIR 活動団体の世界ネットワーク・ResArtis による緊急調査からの「アーティストの AIR 活動計画の取消・短縮・延期が半数あったこと、AIR プログラムの無期限閉鎖 1 割」との速報を受信したことも切っ掛けとなった。2020 年 11 月、マクロレジデンス、Y-AIR そして遊工房の持つネットワークデータ中心に、ONLINE によるアンケート調査依頼、12 月回収し調査分析に入った。2021 年 3 月報告の予定でまとめている。

### 2. 関連する活動

#### ① 講演

・福井県立大学・紙と神の未来学・研究会・山崎茂雄教授（越前市公民館）

2020.02.15 「AIR とは？」講演、村田達彦

・東京造形大学・大学院造形プロジェクト「アーティストとしての実践学」

2020.10.06 「AIR」とは」ON LINE 講義、村田達彦

#### ② 調査訪問・交流

2020.02.16 福井県 AIR 交流「IMADATE ART CAMP」（越前市） 村田達彦、村田弘子

#### ③ フォーラム・シンポジウム等

2020.02.07, 08 Y-AIR Network International Forum @女子美

2020.02.15 紙と神の未来学・研究会@越前市公民館（越前市、福井）

2020.11.15 「トロールの森 20 周年への期待」@遊工房

## 2-6 アーカイブス

AIR 実践をベースに関連する諸活動、マクロレジデンスの一層の顕在化、AIR と美大の協働による無限の可能性の調査研究は、共有すべく活動報告として発表、また、調査した AIR 情報は、遊工房滞在作家の活動記録と共に、アーカイブとしての整理を心掛けている。

国内外の AIR プログラムデータ、滞在アーティスト外の活動記録、調査研究の成果のアーカイブは順次閲覧できるようにしており、AIR への参加の助言、AIR 設立やネットワーキングの相談なども適時受付けている。AIR プログラムの調査・研究を通し、AIR そして「マイクロレジデンス」の顕在化する活動も進めている。アーティストと共に、社会でのその活動の意義が広く浸透することを願っている。

## 1. 出版物

2020. 12. 31 「遊工房アートスペース年間活動年報書 2020」
2020. 04. 01 「マイクロレジデンス・ネットワークフォーラム 2020 東京  
- Y-AIR 構想 AIR × 美術大学 によるアーティストの国際的キャリア形成 -」
2020. 03. 31 「アーティストブック - 1984 + 36 高島亮三」
2020. 03. 31 「アイディアの結晶化に向けて  
- Youkobo Returnee Residency Program 第3弾 by C・キング & J・カーチス」
2020. 03. 31 「ロンドン/東京 Y-AIR 交換プログラム 2019」
2020. 03. 31 「『Art Camp』を通して考える AIR と美大の協働 - チェコ・日本の交流のかたち」
2020. 03. 31 「アーティスト・レジデンス交換プログラム 2019  
- Youkobo × Finnish Artists' Studio Foundation」
2020. 03. 31 「ルクセンブルクと日本のアーティスト・イン・レジデンス活動 (AIR) を通じた交流」
2020. 03. 31 「バスクの若手アーティストの日本滞在制作の活動記録 - AIR と美術大学の協働 2019」
2020. 03. 31 「Y-AIR trial between Finland and Japan, Part 3  
- 環境アートを通じた Y-AIR 実践、AIR と美術大学の協働」
2020. 02. 20 「マイクロレジデンス交換プログラム 2019 - Youkobo Art Space × studionAme」

## 2. AIR 展覧会カタログ、案内状など

会期	イベントタイトル・アーティスト	内容
2020. 11. 03 - 2020. 11. 29	隣り合う腕   ALABORA : 大塚 聡、川越健太、柰谷圭章	DM、カタログ
2020. 03. 25 - 2020. 03. 27	Perception Practice / チカク   曹賢珠、山口諒	DM、カタログ
2020. 01. 22 - 2020. 01. 26	人生というドラマが明かされる瞬間   アニタ・イエンセン	DM
2020. 01. 22 - 2020. 01. 26	葉 (共鳴への希望)   ベンジャミン・ウッズ	DM
2020. 01. 22 - 2020. 01. 26	果てしない海   テーム・コーペラ	DM

## 3. 掲載記事等

①美術手帖 ART NAVI、月刊ギャラリー、Tokyo Art Beat、各国大使館・文化センター・交流機関 HP にて 滞在及び展示情報掲載

②新聞

・「東京新聞」11月9日掲載 (トロールの森)

③ 情報誌

Youkobo Schedule Overview 2020

as of March 17 2020

		2019 JFY			2020 JFY											Remarks		
		2020/ Jan	Feb	Mar	Apr	May	Jun	Jul	Aug	Sep	Oct	Nov	Dec	2021/ Jan	Feb			
A	AIR-1	FI	US	DE	US		G		ES	DK	IT		FI		-	-	TENKU Art Festival 2020	
C	-2	AU	J	NL		GB/J			J	CN			AU		-	-		
C	-3	FI	SK	FI			CA	US	BE	NZ			LU		-	FI		
E	Gallery			J					J							J		
P	Outside							ES		FI								

D	GB					J/GB					J/GB						LTYE2020, Ai mi Tagai 2020 FASF/Youkobo RMIT/Youkobo
E	FI			J					J								
S	AU													J			



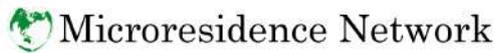
as of October 5 2020

		2020											2021			Remarks		
		Jan	Feb	Mar	Apr	May	Jun	Jul	Aug	Sep	Oct	Nov	Dec	Jan	Feb			
A	AIR-1	FI	US	DE														
C	-2	AU	J							J		J						
C	-3	FI	SK													FI		
E	Gallery			J						J						J		
P	Outside																	

D	UK												Online				LTYE2020, Ai mi Tagai 2020 RMIT/Youkobo
E	FI																
S	AU												Online				



令和2年 アーティスト・イン・レジデンス活動支援を通じた国際文化交流促進事業



Youkobo Art Space Annual Report 2020

Edit : Youkobo Art Space  
Zempukuji 3-2-10, Suginami-ku, Tokyo,  
167-0041 Japan  
TEL/FAX: 03-3399-7549  
E-mail: info@youkobo.co.jp  
URL: http://www.youkobo.co.jp  
Published in Japan January 2020